

議題2. VFMの検証について

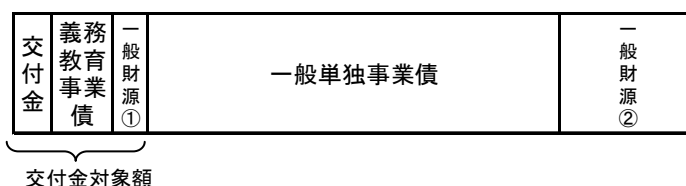
(1) 試算ケースの設定

試算ケースとして、PFI(BTO)方式のうち、資金調達方法の異なる2ケースを設定し、それぞれのケースについて、民間活用による削減率(従来方式に係る事業費(PSC)を100%として、90%及び85%)の感度分析を行う。

- ① BTO方式(起債:満額活用)
- ② BTO方式(起債:活用なし)

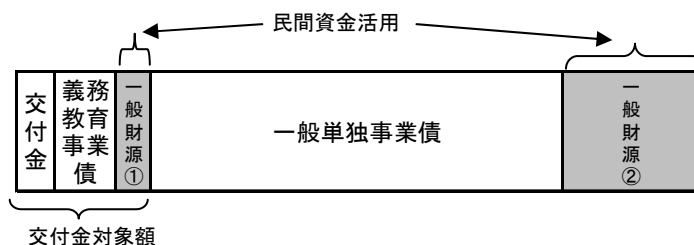
なお、上記各ケース別当初整備経費に係る資金調達方法を以下の通り整理する。

■従来方式(PSC)の資金調達イメージ



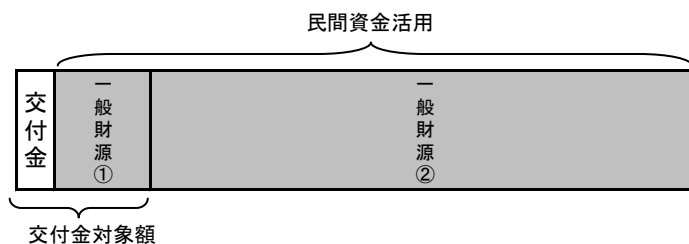
【従来方式の内訳】 ※(括弧)内は、初期投資額に占める割合
 ・安全・安心な学校づくり交付金:約5%
 ・市債:約75%
 ・一般財源:約20%

■BTO方式(起債満額活用)の資金調達イメージ



【BTO方式(起債満額活用)の内訳】(削減率90%の場合)
 ・安全・安心な学校づくり交付金:約5%
 ・市債:約75%
 ・事業者への割賦払い(割賦元本分):約20%

■BTO方式(起債:活用なし)の資金調達イメージ



【BTO方式(起債活用なし)の内訳】(削減率90%の場合)
 ・安全・安心な学校づくり交付金:約5%
 ・事業者への割賦払い(割賦元本分):約95%

(2) VFM算定結果

■BTO（起債満額）方式

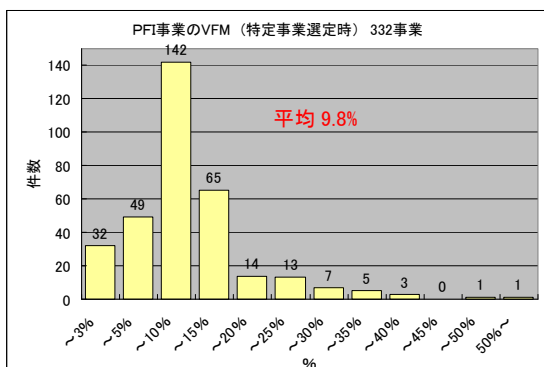
| 削減率設定 | | 90%(10%削減) | 85%(15%削減) |
|---------------|-----------|------------|------------|
| PSC (従来方式) | 実施金額(千円) | 14,556,417 | |
| | 現在価値(千円) | 11,151,486 | |
| 民活手法－ LCC | 実施金額(千円) | 13,803,197 | 13,416,623 |
| | 現在価値(千円) | 10,418,944 | 10,139,863 |
| VFM | 金額ベース(千円) | 732,542 | 1,011,624 |
| | %表示 | 6.57% | 9.07% |

■BTO方式（起債：活用なし）

| 削減率設定 | | 90%(10%削減) | 85%(15%削減) |
|---------------|-----------|------------|------------|
| PSC (従来方式) | 実施金額(千円) | 14,556,417 | |
| | 現在価値(千円) | 11,151,486 | |
| 民活手法－ LCC | 実施金額(千円) | 13,542,194 | 13,145,045 |
| | 現在価値(千円) | 10,580,825 | 10,271,685 |
| VFM | 金額ベース(千円) | 570,662 | 879,801 |
| | %表示 | 5.12% | 7.89% |

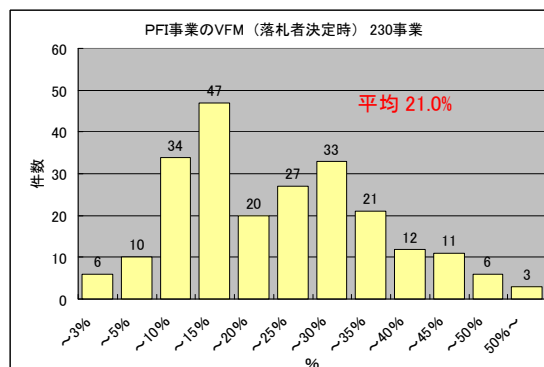
(参考) 他事例におけるVFM

【特定事業選定時のVFM】



全PFI事業 (332事業)

【落札者決定時のVFM】



把握できた全PFI事業 (230事業)

【仙台市PFI活用指針（第3版）H18.10】

各段階で算定されたVFMが、最低でも「3%以上かつ現在価値換算後1億円以上」と見込まれること。

【神戸市PFI指針H15.6】

PSC及びPFI事業のLCCを比較し、定量的分析を行います。また、可能な範囲でサービス水準等について定性的分析を行い、両分析の結果、従来方式に比べ、PFIを導入した場合の方が、市の財政負担額が軽減される場合、あるいは同じであっても、それを上回るサービス水準の向上が期待できる場合にはPFIを導入します。

【堺市PFIマニュアルH22.3】

分析の結果、従来方式に比べ、PFIの手法を導入した場合の方が、市の財政負担額が軽減される場合、あるいは同じであっても、それを上回るサービス水準の向上が期待できる場合にはPFI手法を導入します。この公共サービス水準の評価は、できる限り定量的に行うことが望まれますが、定量化が困難なものを評価する場合には、客観性を確保したうえで定性的な評価を行うこととなります。